

策定年月	令和6年5月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：加東市田中地区

(作成主体：加東市農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

(1) 白大豆生産の現状と課題

①現状

- ・ 白大豆については、田中地区を中心に生産されており、生産面積は横ばいである。
また、単収については、令和3年度の186.1kg/10aをピークに減少傾向である。

②課題

- ・ A（集荷業者）を通じてB（実需者）から、継続的な需要があることから、単収の向上及び経営面積の拡大が課題である。

(2) 課題解決に向けた取組方針

○作付面積の増加

現在、C営農組合では、手押し式管理機による培土・除草、背負式の動噴機による肥料散布を行っており、適期作業のためには、現在の9.2haが限界となっている。乗用管理機（中耕ディスク、グラウンドソー）の導入により、中耕除草、培土、肥料の散布を同時に行い、作業効率の向上が図られることから、作付面積を増加させる。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針(白大豆)

連携方針：『需要に応じた生産の定着・拡大を進める。』

〈具体的な取組内容〉

- ・ A（集荷業者）を通じて実需者ニーズ等の情報を収集し、生産現場での生産対策に反映させる。

生産数量・面積目標（産地）

作物名	品種名	R5年産(現状)	R8年産（目標）
白大豆	サチユタカ A1号	15t	18t
		内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：15t	内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：18t
		9.2ha	10.2ha
		内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：9.2ha	内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：10.2ha

取扱数量目標（B実需者）

作物名	品種名	R5年産(現状)	R8年産（目標）
白大豆	サチユタカ A1号	15t	18t

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

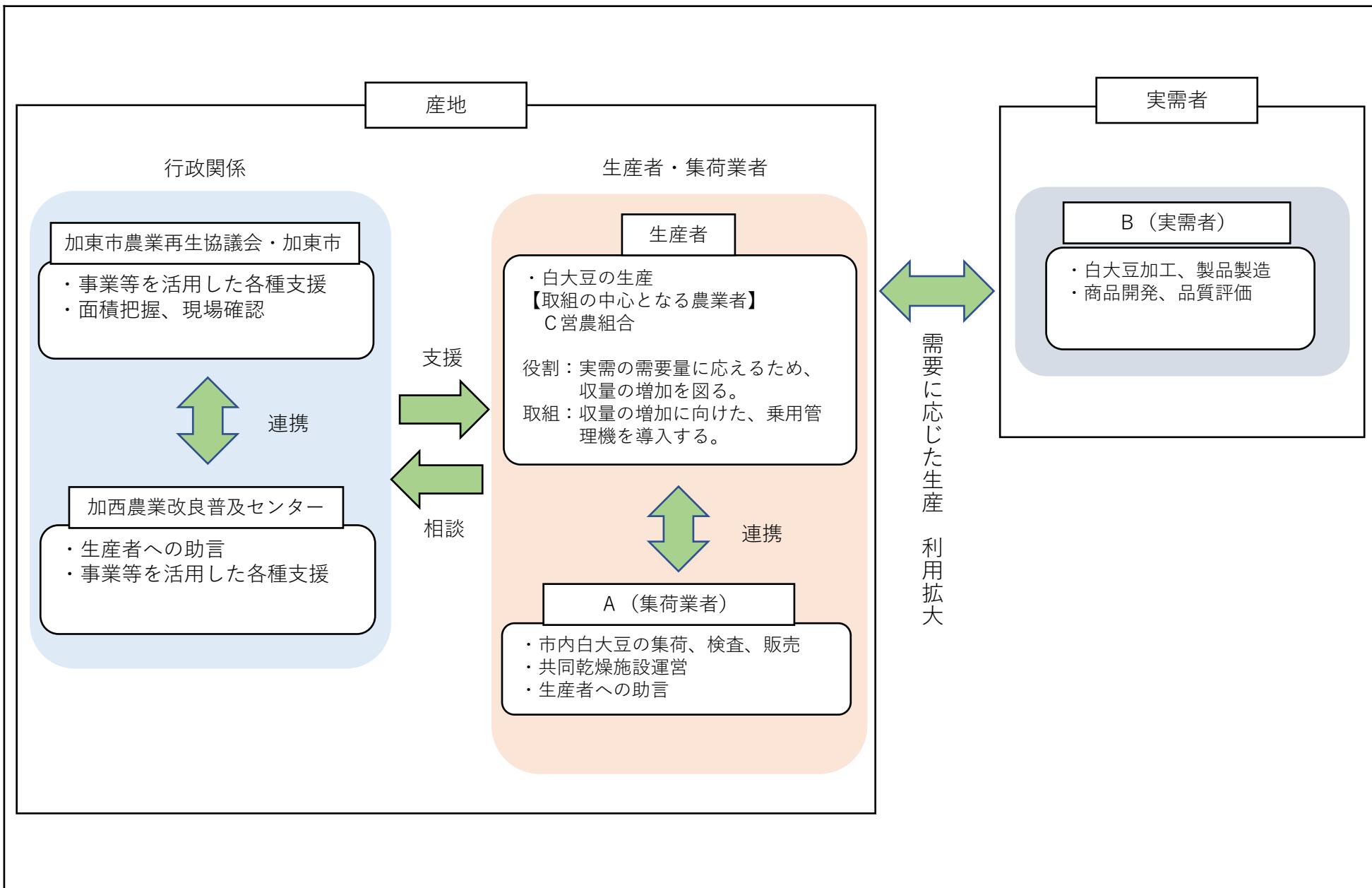
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。